

第五は歯科設備の問題ですが、私は、これは必ずしも必要ないと思つて居ります。治療と云う点は学校衛生的立場から云えばゆき過ぎだと思ひます。幼稚園保育所はあくまで教育を通して又その環境の力によつて子供達の健康な成長発育を助生する事が根本原則だと存じます。

第六洗口設備、これは是非欲しいと思ひます。

現在の所あまりない様ですが、食事の後の洗口と云う事は歯科衛生の上から大きな価値があります。特に上手に歯口清掃の出来ない幼児には、洗口は是非して欲しい事の一つであります。躰の一つとして幼稚園保育所で協力される事をお願いしたいと思ひます。

第七の教育なのですがこれは私の成績では矢張り現在余り行われていない。併し健康教育こそは幼稚園の生命と思ひます。児童に対しては保母さん方父兄に対しては園医から出来るだけ徹底して欲しいと思ひます。体の大切な事それ等を守る医者と云う様なものを正しく幼児に認識させる事は保母さん方の大きな任務の一つだと考へます。

こうした点で保母さん達が保育医学的問題に関心を持たれる事を私は心より希望いたします。

さて最後に、私の行いました一〇一四九名の乳幼児のムシバ統計

は何を物語るかを少々御説明いたしました。戦争で他の地位は落ちたにもかゝらずムシバは減つた。比較的裕福な子供達のいる幼稚園の方が託児所の子供達よりムシバが多い。東京の山手の知識層の多い子供達が下町の子供よりムシバが少い。以上の様にられつてこれ等を分析して参りますと、私は間食つまり砂糖の害と云う事以外にないと思ひます。戦争中は砂糖がありませんでした。為保育園の児童は夕方まで園に居る關係上間食しない。山手の知識層の子供達は間食しても下町の子供の様に放りばなしにされていない少くとも与え方に注意されている。私が調査いたしました下町の或る私立保育所の子供達は日に百円平均の無駄遣いをするとの事でした。その子供達が一人約十本平均のムシバを有して居りました。

勿論ムシバには素質が大きな影響をして居ります。併し以上の成績から環境の力も仲々大きな事を忘れてはなりません。こうした点でどうか間食問題を保母さん方に大きく取り上げて戴き度いと思うのであります。以上大変くどい事を申しましたが要するに子供達の成長発育を正しく伸す保育環境を研究して与えてやる事こそ幼稚園保育所の歯科衛生のきゆうきよくの在り方だと存じます。最後に本研究に色々便宜をあたへられた方々に心より感謝致します。

問題 兒事例 研究

京都市児童院保育所

坂 本 幸 子

問 題 児 (A)

(1950.5月調査)

(個人歴) 昭和21.2.11日生 三人同胞中第二子

異
状
性

- (發育) 普通重症なし I Q 125 (26.7.10Test)
- (外貌) 均等のとれた体格や、神経質な顔。癖咬爪舐指。布・木・土かじる
- (行動) 拒否不完定。非社会性。剛情。狂暴性。爆発興奮型気分動揺型
- (判定) 強度な非社会的行動児

生
活
習
慣

- (睡眠) ひとりね中。きかえる。ねおきより、あいさつする。ひるねせず
- (食事) ひとりだち中。こぼす。起つ。残す。偏食にんじん。その他魚類でも気分的に食べず
- (清潔) うがい。はみがきしない。口すゝぐ顔洗いで。鼻汗無關心。風呂好き。頭洗いきらい
- (排泄) 一日一回。ひとりだち上(着衣) ボタン中。靴ひも下
- (協同) 仲よく遊ばない。けんかする。同情なし
- (判定) 異常食。協同性なし

家族構成	続柄	年令	職業	教育	氣質	家庭構造
	父	37	会社員	大学卒	温厚真面目	
	母	30		高女卒	勝気 理知的	
	姉	8		小・二	無口 さむつかし	
	本人	5		保育所		
	妹	3				
<u>綜合意見</u>						
旧家にある祖母と 近所の子供に、乱暴する 本人に、近隣関係の同 題がある。		近隣 = 該家庭 仲よくない (近隣環境判定) 三角辻にあり旧家 故に中流以下の近 隣と接済む。		(京教) 日蓮宗 無神論 (生活程度) 以前と大差なし (入所の理由) 妹あり 反り、故 (子役に打てる希望) お子に育つほしい (家庭環境判定) 教養常識あり 圓滿な家庭環境		略図 家計状況 健康診断 等略す。

(問題児とした理由) 入所日から全然集団の中には入らない。他児を噛み掻むしるなぐるといつた問題行動が次々発生し保育の統制を欠き保母の悩みとなつた事。

(現家行動) 入所後二週間は全然部屋にはいらず砂場に居る。入室しても食事をしない。団体ゲームからも逃げ出す。エプロン木土をかじる。自分に近よる者をぶつ。又要求が中絶されると噛みつく但し相手は必ずしも自分に不利だつたものとはかぎらず手当りばつたりが多い。

(原因追求)

(1)、家庭調査Ⅱ 女兒には生まれた一人息子で祖父母の溺愛と家がかなり物質的に不自由なく暴君の存在であつた。

(2)、仮定的診断Ⅱ 急に保育所という変つた環境におかれ容易に社会適応が出来ず独りになる逃避の形をとつたのだが、仲間の刺戟と保母の働きかけに益々混乱を来し兎角試行錯誤的な社会的接触を試みたとみなされる。木や土をかじるのは蛔虫によるとも考えられ又蛔虫からくる身体的症状が増々情緒不安定にしているとも思われる。

(処置經過) 黙つて行動観察をつゞける。砂場にスコップ等持つていつてやる。話かけたら逃げるので皆にも近よらないよう云つておく。がある日とうとう他児が彼の安定場所である砂場に立入つてしまつた。砂を投げる。スベリ台に立はだかつて誰も通さない。制するにも保母の言葉など問題にしていないので手のつけようがない。他児に暴力をふるつた時はきつと手を握る。エプロン等かじり出すとわざと知らん顔してみせる。強い力で私も何度か傷つけられたが反抗心の生れるのを恐れ決して叱らずむしろ悲しい表情で黙つて

彼の眼をみる。言葉をかけたら逃げるのでいつもこの方法をとる。

不思議にじつとみつめている。或日ニヤツと複雑な表情をしてやつと私の存在を意識した。そこで先ず部屋に誘導する為積木遊びに関心をもたす。よく遊ぶ。うっかり話かけると積木を投げられるので機会のみねらう。お弁当は食はないが座るようになる。

私は「おいしいく」と独言のようについて、さつくと食べる或日又ニヤツと笑つた。しめた! 「おかず何?」「玉子やわい」やつと口を開いたのである。一箸口に入れてやると食べる。翌日から食べ出す。半分で止めていなくなる。兎に角何か彼の興味をとらえて安全感をもたさねばと考えクレオンと紙とを積木の側においてやる。

予期通りなぐりがきがりポツポツと線を走らせた。次第に興味を描く事に移つてゆく。約一ヶ月後黙つて墨で描いている私の側に来て同じく黙つて彼も筆をとつた。

その軽々とさつくと運ぶ筆のタッチには「おやつ!」とびつくりさせられた程です。こうして立派な作品が次々生れたが私は素晴らしいともステキだとも賞讃しなかつた。なぜなら変につくのはこの子には禁物だつたから。でもこの子の表情からして何か手懸りを見てとつた私は文シメタと思つた。果してこの日(作品展示)等一日に四枚もたてつゞけに描くという意欲をみせたのである。こうして毎朝私の顔さへみると「先生絵のお遊びしよう」といつて自ら机に向うという珍らしい反応を示した。又彼が一旦紙に向うと他にどんな条件が加つても見向きもしないで四十五分も絵に熱中するといった集注力のレコードをつくるし、何事にも「いや」としか云わなかつた彼が「お母ちゃん赤ちゃん連れてお買物に行くの」と話し

ながらドラマチゼーションの絵を描き何の暗示も与えないのに次々違つた画題を捉えてゆくそのイマジネーションの豊さ、そののびくんと自由なクリエーティブな描き方にはたゞ眼をみはるばかりだつた。昔の前で作品を賞讃する事によつて自信がつき全然他人と没交渉だつた彼が急速に社会性をみせはじめ他児も彼の存在を認めただのである。秋の運動会に先頭になつて行進した。それからはずべてに積極的態度が現れ問題は調整可能となつた。又託児全員が描画に深い関心をもち保育の向上に役立つ事、更に私自身ボスターカラー（別表参照）とクレオン画の比較研究が出来て大きい収穫となつた。

〔再び調整破る〕ところが去年四月から再び調整が破れ始めた。

〔現象行動〕従弟（Y）が入所、従弟という血縁が無条件に二人を結びYの新しい行動にひきづられて複数による力で他児に手むかつてゆく事に興味をもちだす。

〔原因追究〕Yそのものに問題がひそんでいた事。彼は他人を全然無視した反社会的行動児でその個人歴にある。即ち

胎児から出生にかけ非常な時変のシヨツクをうけ大切な乳児時代に引揚の悪条件による不完全な哺乳と危険な栄養状態によつて異状体質の素因をなしたと考えられる。そこへもつて両親が新しい商売に全力をあげるといつた、あわただしい環境が精神的にも彼を不安定な性格においやつたのではないかと診断される。加うるに市電の交叉点故に入所するまでには他児と遊んだ事がなく泣かされてばかりいたという事からも社会性の素地が全然なくむしる反響が彼の内面を支配していたといえる。

〔診断〕旧しKの内面機制にも何等かの問題がまだ残つてゐるものとみなされる。そこでKの調整を速く取戻す為にはYの行動観察をつゞけ二人の問題発生の場面を捉える必要がある。

場面の現れる共通性＝抑圧による異状行動（即ち田嶋がはばかれた場合によく起る）

その環境 { 外部的条件＝玩具、分配、リーダー等
内部的条件＝興味と好奇心

〔二人の共通現象〕

1. 狂暴性がある。
2. 感受性が強い。
3. 智能優秀
4. 口癖あり力余つている。
5. 創作意欲が大。
6. 感情が激しく爆である。
7. 持久力に乏しい。

〔計畫處置〕兎に角安全感をもたらし刺戟を少くして序々に野性を取りのぞくよう訓練してゆく方法を考へる。それにしても毎日二人で狂暴性を発揮するのでなかく彼等の内面にはいつてゆくスキがない。そこで二人を出来るだけ離す工夫をする。例えば別々に玩具の責任をもたす。又一人は外遊、一人は室内にと興味の場所を二分する。Yの問題解消に重点をおく。出来るだけ二人の要求を充す環境をつくるよう工夫する。悪い行動を予期した場合絶えず未然に約束し反唱さす。きびしくしめる時と大いに讃める時、又甘やかす時の区別をはつきり保母自身も気をつけ家庭にも協力を求める。常に家庭での行動を尋ね密接な連絡をとる。約束を破つた場合友人關係にてきびしく批判しあい相談室に入つて静かに相談する。

〔経過〕一向に目立つて良くならないし、依然として平気で他児を

た、いたり速くに出かけたりする。皆から無関心に除外されている事などわずわすれて悠然と外遊、勝手な遊びに夢中である。

(混乱) (再診断) 彼等二人が真実の子供の姿であつて団体行動を強いる方にむしろ問題があるのではないか、他人を害しない行動の他は問題視しない様にしては等反省。心理教室に相談にゆくも具体的手段は掴めない。たゞ家庭を再査してはとの手懸りを得て暫らく二人の行動を監視する事にした。

(手術) こうして診断に苦しみつゝもこゝに一つの大きな手術を思いたつ。即ちKを一日欠席してもらつたところ、保育所にゆけない事が何よりの傷手でこたえる。一方Yの調整の乱が少い。二日目二人登所同じ状態。三日目から三日続けて欠席させ家庭で行動を記録してもらふ「保育所に行かせてと泣いてせがむ」と母親の記録にある。

偶然にYが病欠したのでその機会に再びボスタカラーをあたえる必ず四五人のグループの中に自分の存在を意識させながら描画の行動をとらす。材料を共同で用う訓練をした。去年は独り描く事のみ熱中していたが、この頃は友に絵具等もゆずるし後片づけの協力もする。

作品も大切に引出にしまひ食後等又出して来ては手を加えるといつた真剣さをみせる。

一ヶ月後病気が癒つてYが登所したがKは既に彼の存在等わずわすれて自律の行動をはつきり示す。私はすかさずYの友となつてキノーカー(たゞく玩具)や粘土をあたえたりリズムバンドのコンダクターにならせたり給食のカップ集めた手伝わせたりしてぐんぐん集団の場

に導いていつたところいつしか不安がとりのぞかれ拒否と反抗による異状行動が減じた。(時間の関係上Yの経過についてはこれ以上述べる事を略す) Kも毎日のように友を泣かさない。手、顔の洗方が丁寧になる。リズム遊戯等よく皆と調子を合せ裏面目にする。お弁当の時席を起たなくなつた等のよい行動面が現れ完全に二人に独自の立場で自己を主張、立派に社会に適應していつたのである。

三月には紙芝居(作品展示)を作成、しかもこれは絵本等模写したものでなく私が彼の側で静にお話を組んでやるとそれを次々彼は絵に表現していつたのである。これを大人達を前に堂々と演じた。修了式にはYは未了児代表でかなり長い祝詞をしつかりとのベKは修了児総代で賞品授與に落着いた態度で出たのである。一時間半にわたる式中二人とも涙ぐましい程温和しく静座していたし、その眼の輝きで私には緊張の度合もよく観察されたのである。

以上二ケ年に亘る問題児研究報告は終るが、この間、保母自身の内面的ストラツグルやソシオグラムの失敗があつた。が、幼稚園ならず保育所という難門の中で躓い苦しんだ実験者の体験そのものこそ今後の保育に貴重な資料を得たと申上げたのです。